

書き抜き読書ノートのすすめ

—積極的な読書をすすめる基礎知識—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

人は一生のうちに、どの位の本に接し、どのくらいの量の文章を読むのでしょうか。また、読んだ内容のうちどのくらい読書後の人格の形成に役立っているのでしょうか。

「人格形成」とまでは言わなくても、どのくらい心に残っているのでしょうか。

今回は、季節も「読書の秋」になりましたので、積極的な読書の一つの方法として「書き抜き読書ノートのすすめ」という題でお話をさせていただきます。



2. 「書き抜き読書ノート」のすすめ

(1)はじめに、自分の気に入ったノートを一冊用意して下さい。何年も、場合によっては何十年も使用するものなので、なるべく大きめの文房具屋さんに行って、たくさんの種類のノートの中から、できるだけ、これからお話しする内容にふさわしいノートを一冊選んで下さい。長い年月使用するものなので、多少金額が高くても、もったいないと思わず、思い切って買って下さい。

*文房具を選ぶコツは、a, なるべく大きなお店に行くこと。b, 1ヶ月に1~2回は行き、どんなものがおいてあるか頭に入れること。c, 買いたいものがあったら、多少高くても思い切って買うこと。お金がなければ、1~2ヶ月他の支出を削ってでも買うこと。以上のように、十分比較検討した上で気に入ったものを購入し、後は、大切に使うことです。

(2)気に入った本を読んでいて、心にふれる文章に出会ったら、その横にうすくえんぴつで線をひくこと。もし、感じるものがあったら思いつくまま、自分の思いや、考えをその近くにそっとメモしておくこと。

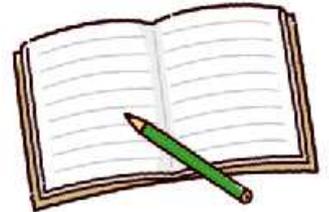
*図書館やお友達からお借りした本に、線をひいたり、メモをしたりしてはいけません。お借りした本の場合には、紙をしおりの大きさに切り、そのページのところにはさみ、そのしおりに、ページを記入した上で思いつくままにメモをしておくといいでしょう。

*自分のお金で買ったものであれば、本にはどんどん線を引いたり、メモをしていくことをおすすめします。入院などしていて、ベッドの上で本を読む場合には、重くて読みにくい本の時には、



章ごとにカッターで切り、ホチキスでとめて、何冊分にも分け、軽い形にして読むことをおすすめします。自分で買った本ですから、もったいないと思わず、気が済むまで書き込みをしたり持ちやすいように分解してもいいのです。それよりは最後まで読み終えること、自分自身の向上のために役立てることが大事だからです。

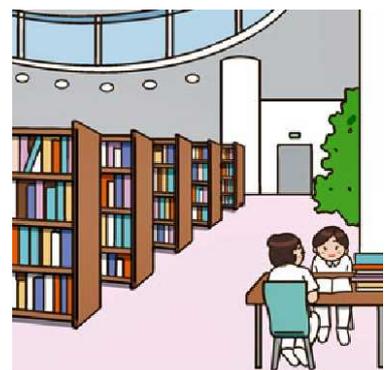
(3)このようにして一冊読み終えたら、線を引いてあるところや、メモをしてあるところをもう一度読み返して、気に入ったところや深く感じられたところがあれば、「書き抜き読書ノート」に、そっくりそのまま書き抜いて下さい。一冊のうち一行でもいいのです。あまり多くの量を書き写さないことが「書き抜き読書ノート」を長続きさせるコツです。「感想文」を書く必要はありません。(ただし、どうしても書きたければ書けばよいのですが、読んだ本すべてについて感想文を書こうと思うと、気が重くなって、長続きしません。気に入ったところだけたとえ一行でもいいから書き抜くだけで十分です。)本の名前、著者の名前、読み終えた日付なども書いておくといいでしょう。これで、「書き抜き読書ノート」はおしまいです。どうです。簡単につくれるでしょう。是非、この文章を読み、自分で納得がいったら、ノートをつけはじめて下さい。



3. おわりに

この「書き抜き読書ノート」は、皆さんの宝物となります。小さな旅行に行くときにも、高校を終えて、家から離れて就職や進学のため引越すときも、結婚をして住まいを変えるときも、外国に行くときも、肌身離さず身近に持って行って下さい。最後のページまでつけ終えたら、宝物の場所に保存しておいて下さい。途中までつけ何年かつけなくなっても、また、書きたくなったら、もう一度記入し始めて下さい。そして、10年に一度くらいは、一冊目からもう一度見直して、いろいろ思いをめぐらせて下さい。その中でも気に入ったところがあれば、声を出して読んでみたり、その文章全体を暗記してみてください。お友達や家族に、自分の気に入った文章を教えてあげ、どう思うか意見を聞いてみて下さい。

一人一人の「人格」や「思想」というものは、どのように形成されるのか、私自身最近考えることが多いのですが、以外とこのようなノートを使った積極的な読書によっても形づくられるのではないかと考えます。保護者の皆様も残された40～50年間、お子様ともどもこのノートをおつけになることをおすすめいたします。



読書量が学力を決める

ー学力向上のために毎日の読書をー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：「読書量が学力を決める」とは、どういうことですか。

A：(林明夫：以下省略)読書の絶対量が多ければ多いほど学力は高く、読書量が少なければ少ないほど学力は低いということです。

家庭の収入が高いほど読書量が多く、学力も高い。収入が低いほど読書量が少なく、学力も低いとされています。しかし、収入の高い家庭でも読書量が少なければ学力は低く、収入の低い家庭でも読書量が多ければ学力は高いと言えます。

つまり、家庭の収入の多い少ないに関係なく、読書量が多ければ学力は高く、読書量が少なければ学力は低いと言えます。



Q：本をたくさん読めば、学力は向上するということですか。

A：その通りです。学力を身に付けたければ、毎日コツコツと読書をし続けることです。自分の未来は自分で切り拓く、自分の責任は自分でとる、つまり自己責任の原則が大切と考え、本格的な読書をして、ものごとを深く考える能力を自ら育成することが大事です。



Q：どのような本を読んだらよいのですか。

A：学校の各科目の教科書で紹介されている人の書いた本や、教科書で取り上げられているような内容の本を、まずはお勧めします。

学校の教科書に書かれているすべてのことがらについての単行本を読むことは不可能でしょうから、図書館や書店で、少しでも興味をもったことや興味のある本に出会ったら、積極的にチャレンジしてみましょう。



Q：どのようにして、本を捜したらよいのですか。

A：図書館で本を捜し読む能力を身に付けることが大切です。そこで、今通っている学校や県立、市町村立の図書館を気軽に訪れ、図書館司書の先生から図書館の利用方法をよく教わることをお勧めします。図書館司書の先生のお仕事は、利用者の皆様のお手伝い(サポート)をすることですので、十分納得がいくまで指導を受けてください。私は今、この文章を宇都宮大学の図書館で書いています。最近では、ほとんどの大学の図書館が県民すべてに開放されていますので、どんどん利用するとよいと考えます。(但し、閲覧と違ってそこにある本を読むことは可能でも、貸し出しはその大

学の学生や教職員以外は認められない場合が多いようです。各々の図書館を利用するときには、そのルールもよく調べてくださいね。よい勉強になります。)

Q：書店で本を買うときは、どのようにしたらよいのですか。

A：1か月に1回くらいは少し大きめの書店に行き、2～3時間かけて本を選ぶことをお勧めします。年に何回かは、東京のもっと大きな書店に出掛け、半日くらいかけて本を選ぶとよいでしょう。

但し、本を買うにはお金が必要ですから、自分のお小遣いの範囲内で買い求めることが当然です。ご家族に無理を言ってはなりません。



Q：1冊の本は何回くらい読んだらよいのですか。

A：最低でも3回、できれば5～6回読むことをお勧めします。

Q：えっ、そんなに何回も読んだ方がよいのですか。

A：はい。どこに何が書いてあるのかが何となくわかるのが1回目。書いてある内容の意味が大体わかってくるのが2回目。よくわかるのが3回目。さらに、4回、5回と読んでいくうちに、ジワーと身にしみてきて、6回目でなぜ筆者はそのようなことを書いたのかがわかるようになる。そのように思います。よい本ほど、5～10年おきに読み直してみると新たな感動を覚えるものです。

夏目漱石、志賀直哉、内村鑑三、世阿弥、宮本武蔵、福沢諭吉、二宮尊徳の本などは、何回読んだかわかりません。読むたびごとに、新たな発見、新たな感動を覚えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：1冊の本を読み通し、深く感動したところ、これだけは正確に覚えて身に付けておきたいところ(つまり「定着」を図りたいところ)に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に書き抜くことをお勧めします。

そして、折に触れ「書き抜き読書ノート」を何十回、何百回読み返しましょう。ものごとを自分の力で考えるときにとても役に立ちます。この「書き抜き読書ノート」を、皆様の一生の宝物の1つにしてくださいね。

「学力向上の決め手は読書量である。」このことを、今回は是非皆様に考えて頂きたく希望いたします。



－ 2006年10月8日宇都宮大学図書館にて記す－

「書き抜き読書ノート」とはどのようなものなのか、私が毎日書き抜いているものを、2006年8月14日から開倫塾のホームページの中にある林明夫のコーナーにて掲載しております。御参考までに是非御覧ください。

学力のつく夏休みの過ごし方とは

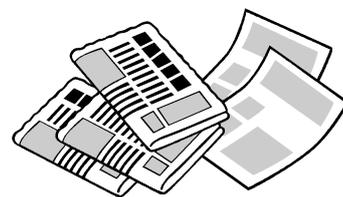
－「英検」、「新聞」、「読書」に挑戦しよう－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：夏休みには、何に挑戦したらよいですか。

A：(林明夫：以下省略。)塾生の皆様の今後の勉強と、「人生の成功」のために「英検」、「新聞」、「読書」に挑戦することをお勧めします。



Q：なぜ、「英検」と「新聞」、「読書」なのですか。

A：(1)国際化は今後もっともっと進みますので、世界の共通語としての

「英語」はキッチリ身に付けておく必要があります。自分はどのような生き方をしなければならないか、なぜ勉強しなければならないかを考えるとき、最も参考になるのが、世界や日本、地域の動きを毎日報道してくれる「新聞」です。思慮深く、また、いつも自分のことをふり返りながら生きるためには、幅広い、また、質の高い「読書」が大切だからです。

(2)どのような試験を受けるにも、短い時間の中に大量の文章を正確に、また、批判的に読んだ上で、自分の頭で正解を出し続けなければなりませんので、この三つは入学試験対策のためにも必要不可欠です。

(3)現在、開倫塾に在塾している塾生の皆様は、ほぼ全員が高校を卒業した後、大学、短期大学、専門学校に進学すると推測されます。そのような学校を「高等教育機関」と言います。「高等教育機関」で勉強する上で、「英語」と「新聞」、「読書」は最も重要です。また、「高等教育機関」を卒業して社会に出て活動するときには、「高い仕事能力(スキル)」が求められます。「英語」と「新聞」、「読書」を抜きにして、「高い仕事能力(スキル)」は考えられません。



(4)このような理由で、開倫塾では「英検を毎年、確実に取っていこう」、「小学生は20分、中学生は40分、高校生は1時間以上、新聞を一面から毎日読んで考えよう」「質の高い読書を積み重ね、気に入ったことばに出会ったら『書き抜き読書ノート』に書き写そう」を教育の方針にしています。

夏休みは、この三つの課題に最も取り組みやすい時期ですので、今年も大キャンペーンを展開します。

Q：「英検」を受験するのは、開倫塾生の義務ですか。

A：はい、義務事項です。開倫塾の塾生であれば、毎年、実用英語検定に挑戦し、英検の勉強を通して英語のコミュニケーション能力を確実に身に付けて下さい。1つの級を勉強すると約1000の英語の語句を学ぶことができます。英検はマークシートで解答しますが、一度「うんなるほど」と十分理解した内容を「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」を徹底的に繰り返せば、勉強したことがすべて身に付きます。英語を「読み」「書き」「聴き」「話す」能力が確実に身に付き、学校の勉強や高校入試、大学入試にも絶大な威力を発揮します。



全校舎で一斉に、7月初旬から10月の試験前日まで100日間の「英検コース」がスタートしますので、全員履修して下さいね。

Q：「新聞」はどう読めばよいのですか。

A：家族の方によく頼んで、不要になった昨日の新聞を、毎日プレゼントしてもらって下さい。(兄弟姉妹のいる方は、皆で仲良く読んで下さいね。)新聞は、一面からなめるように読むことが大事です。読んでいて興味のある記事には印を付け、あとで切り抜き、日付を書き、ノートに貼る。テーマを決めて新聞を読み、切り抜きノートを作るのも面白い読み方です。



新聞は何のために読むのか。世の中で起こることを、自分の頭を使い批判的に考える能力を養うためです。「批判的思考能力」が、「自立(自分の力で立つ)」、さらには「自律的に活動する能力(自分自身をコントロールしながら活動する力)」の基礎となります。

Q：「読書」はどのようにすればよいのですか。

A：どんな本でもただ読めばよいというわけではありません。先生がすすめてくれた本や、教科書や新聞で紹介された本、図書館にある本をお勧めします。本は、速く読まないこと。ゆっくり時間をかけ、よく考えながら読むこと。精読、熟読することです。時々、声を出して読むこと、「音読」すること。気に入ったことばに出会ったら「書き抜き読書ノート」に書き写すこと。



Q：本は何回読めばよいのですか。

A：時間をおいて、同じ本を5～6回ゆっくり読むことをお勧めします。

この三つを、7月に入ったらどんどんやってみましょう。きっと頭が冴えわたり、2学期が迎えられますよ。

古典を毎日「音読」し、学力の基礎を身に付けよう

— 一生役に立つ学力の基礎は「古典」 —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：古典を「音読」すると、学力が身に付くのですか。

A：(林明夫。以下省略)「古典」とは、古い時代にでき、現在まで何らかの価値が認められてきた本を言います。各国にはおのこのの古典があります。日本では、「古文」や「漢文」と呼ばれるものが「古典」と言えます。



日本に生まれ、日本で生活している人には、日本の古典である「古文」と「漢文」を毎日少しずつでも「音読」すること(声に出して読むこと)を私はお勧めしたい。

古典は、すべての教科や日本人としての生活の基礎となるものだからです。特に、教科書に出てくるような「古文」や「漢文」は、毎日「音読」することが学力向上の上で役に立ちます。

Q：例えば、「漢文」はどのように「音読」すればよいのですか。

A：原田種成先生は、御自分の旧制中学校時代の勉強方法を振り返り、音読の方法を次のように示しておられます。「音読するには、原文に返り点だけがあり、書き下(くだ)し文がわきに添えてある本を用い、書き下し文を栞(しおり)などで押(おさ)え、読み方のよくわからないところや読めない字があると、栞をあげて下を見る。つまり書き下し文が側(そば)にいる先生の役をするのである。そのようにして、一節を書き下し文を見ずに全部すらすらと読めるようになって、次の節に進む、というようにして読み進めた。



さらに翌日には、前日に読んだところがかえらずに読めるかどうか確かめてから翌日分の節に進んだ。これが私の漢文読解力の基礎になったと思っている。」(P.38)

*原田種成著「漢文のすすめ」新潮選書、新潮社版 1992年9月15日刊より引用。

すらすら読めるようになった古典の文章は、気に入ったところだけでも何も見ないで口をついて言えるようにしておく、学校時代だけでなく何歳になっても忘れないものです。

Q：どのような「古典」を音読したらよいのですか。

A：中学校や高校の学校の教科書に出てくるような「古文」や「漢文」を、意味を確かめながら、まずは音読することをお勧めします。もしできれば、図書館や書店でその単行本を探して全文を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することをお勧めします。そして、気に入った文章は、何も見ないですらすら言えるまでにすることです。

図書館で借りた本は返却しなければならないので、気に入ったところはノートに「書き抜く」こと、そして、書き抜いた文章をすらすら言えるまで「音読」することも忘れてはなりません。



Q：なぜ「古典」を「音読」すると学力が身に付くのですか。

A：これからの世の中は、「知識が基盤になった社会(知識基盤社会)」です。目の前で起こっているものごとについて、一体何が問題なのか、その原因は何なのか(なぜそうなっているのか)、とりあえずどうしたらよいのか、ゆくゆくはどうしなければならないのかななどを自分の頭で考え、問題の解決をしなければならない時代です。

深くものごとを考え、自分の創造力を発揮させるためには、ことばや考え方の本当の意味をよく「理解」した上で、自分の考えを自分のことばや表現方法で他人に伝え続けなければなりません。日本の古典である古文や漢文は、そのときにとっても役に立ちます。日本の古典だけではなく、いろいろな国の古典もとても役に立ちます。

Q：他の国の人たちも、古典を学んでいるのですか。

A：どこの国や民族にもその国や民族の古典があり、心ある学校では古典が大切にされて、先生方も熱心に古典を指導しています。そこで学ぶ人々も熱心に古典を学んでいます。

社会の指導者となる人ほどしっかりとした考え方を持つことが求められますので、古典をよく学んでいます。

Q：日本の指導者はどうですか。

A：旧制中学校(第二次世界大戦前の中学校)で学んだ人々は、古典をよく学び身に付けていたようですが、戦後は、高校での古文や漢文の学習時間がどんどん少なくなっているのです。古典を十分に学んでいる人も少なくなっているようです。

Q：どうしたらよいのですか。

A：日本の学校では古文や漢文などの古典をあまり教えなくなりましたので、そのことをよく「自覚」した上で、社会のリーダーを目指す人は自分で古典を学ぶしかありません。ただ、幸いなことに、日本には表現の自由の一つとして「出版の自由」があり、日本国憲法で保障されていますので、図書館や書店には古文や漢文など「古典」と呼ばれる本が山ほど並んでいます。

人生は長く、また、健康にさえ気をつければ 100 歳以上まで生きられる国に日本はなりましたので、あまり焦(あせ)ることはありません。一生をかけてじっくり古典を読み込んで下さいね。

Q：リーダーが読むべき本として、これぞという古典を何冊か紹介して下さい。

A：中国の唐の時代の基礎を築いた太宗という指導者の教えを記した「貞観政要(じょうがんせいよう)」がお勧めです。明治書院刊の原田種成著の上下本を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することです。北条政子、徳川家康、明治天皇はじめ日本のリーダーのテキストとなったのが「貞観政要」です。



佐藤一斎著「言志四録(一)～(四)」(講談社学術文庫刊)も、日本のリーダーとして読むべき本と考えます。

橋本左内(さない)が元服(げんぷく)を迎えた 15 歳の時に書いた「啓発録(けいはつろく)」(講談社学術文庫刊)も読んで頂きたい古典の一つです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：本当のことを言うと、皆様に御紹介したい古文や漢文など「古典」はもっともっとあるのです。これからも、少しずつ御紹介させていただきます。皆様の保護者や知り合いの方、先生方も、皆様に紹介したい古典をいくつかお持ちかもしれません。教えて頂いたら「素直」な心でその古典を紐解く(ひもとく)ことも、皆様の人生を開くきっかけになりますよ。

ちなみに私は、原田種成先生の明治書院刊「貞観政要」(上下)を昭和女子大学副理事長の前原金一先生から教えて頂きました。「言志四録」の素晴らしさは、弁護士の高井伸夫先生から教えて頂きました。

皆様も、身近な素晴らしい人から素直な心で教えを受けて下さいね。

－ 2009 年 2 月 15 日記－



読書で思慮深さと自省心を身につけよう
—「書き抜き読書ノート」の勧め—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：本を読むことは学力を身につけることに役立つのですか。

A：(林明夫。以下省略)役に立ちます。大いに役に立ちます。学力が高い人は本をじっくりよく読みます。学力の低迷している人はあまり本を読みません。

本をじっくり読んで、深くものごとを考える「思慮深さ」や自分自身を振り返る「自省心」が身についている人は学力が高い。

このように私には思えてなりません。



Q：なぜ本をじっくり読むとものごとを深く考えるようになり、「思慮深さ」や「自省心」が身につくのですか。

A：小説やエッセイ、論説などいろいろな分野の本がありますが、それらはすべて文字で書かれています。

本を読むというのは、そこに書かれている文字を一語一語自分の頭でこれはどのようなことなのかと読み解く、つまり、うんなるほどと「理解」することにほかなりません。そこに書いてあることがうんなるほどと「理解」されてはじめて、次の文章にすすむことができます。一つ一つの「言葉」の意味をうんなるほどと「理解」して読書は成り立つのです。

「言葉」の力が身につくのはじめて本を読むことができます。本を読むことができるというのは、一つ一つの語句の意味がよくわかり、また、一つ一つの文章の意味がよくわかり、作者の言いたいことがよくわかるという「言葉」の力が皆さんに備わっているからです。

「言葉の力」があまり身につけていない人は、文章を読むこと、本を読むことはとても難しいといえます。



Q：簡単そうに見える英語の本がスラスラ読めないのは、「言葉の力」が不足しているからなのでしょうか。

A：言いにくいですが、その通りだと思います。一つ一つの語句の意味がよくわかり、一つ一つの文章の意味がわかってはじめて、その次の文章にすすむ、本を一冊読み終えることができるのです。英語の本がどんどん読めない、最後まで読み通すことができないというのは、一つ一つの語句の意味があまりよくわからず、一つ一つの文の意味もよくわからない、つまり、英語の「言葉の力」が足りないからだとは私は考えます。本を読むこと、読書で大切なのは、日本語も英語も「言葉の力」です。

このような「言葉の力」が少しずつでも備わってくれば、日本語でも英語や他の言語でも本はス

ラスラ読めるようになります。

本に書かれている一語一語を大切に、一ページ一ページじっくり深く読むことは、「言葉の力」を身につけることにとっても役立ちます。



Q：どうしたら読書をすすめるだけの「言葉の力」を身につけることができますか。

A：あまり無理をせず、なるべく自分の学年のレベル、学力のレベルに合った本をゆっくり、たくさん読むこと。本を読むのが苦手な人は、パッと開いてラスラ読める本から読書をスタートしましょう。ラスラ読める本をじっくり、たくさん、量を読むことで「言葉の力」が確実に身につきます。

難しめの本が読みたくなったら、勇気を出してちょっと難しめの本や新しい分野の本にも挑戦しましょうね。本を読んでいてどうしてもわからない語句に出会ったら、「辞書」をひき意味を確かめることもよい勉強です。

このようにして、「言葉の力」を身につけて本がラスラ読めると、学校のいろいろな科目の教科書に書いてあることもよくわかるし、学校の先生の授業もよくわかる、また、試験の問題も文字で書かれていますのでどのような問題なのかを読み取ることができます。

じっくり深く読む読書で「言葉の力」を身につけた人は学力が高く、学校の成績もよく、希望校の入試にも合格できると私は考えます。

Q：読書により「思慮深さ」や自らを振り返る力「自省心」が身につくとはどういうことですか。

A：じっくり型の読書により「言葉の力」が身についてきますと、言葉の「定義」つまり意味内容をよく考えるようになりますので、自分は今何をやっているのか、その「意味」がわかってきます。自分を振り返る「言葉」をたくさんもつようになるからです。

「言葉の力」があまりない人は、世の中には様々な考え方や言葉がある、つまり、言葉としてあらわされる様々な考え方、生き方があるということがあまり思い浮かびません。自分や世の中のことを深く考える「思慮深さ」や、自分を振り返る「自省心」は、じっくり型の読書によって積み重ねられる「言葉の力」によるものと私は考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：本を読んでいてこれぞと思う「言葉」や「考え方」、「文章」に出会ったら、お気に入りのノートを一冊用意なさり「書き抜き読書ノート」と名付け、そのノートにたとえ一言でも、また、一行でもよいですから書き抜くことをお勧めいたします。

「書き抜き読書ノート」を一生の宝物にして下さいね。何回、何十回、何百回、何千回も繰り返して読み直しましょう。自分の気に入ったものですから自分の血や肉、つまり、人格の一部になります。

私の書き抜き読書ノートは、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の中にある「林明夫」のコーナーにあります。私は、毎日一冊ずつ本や雑誌(新聞も)を読み、書き抜くことに挑戦しています。参考までに、是非毎日御覧下さい。

ではがんばって下さい。

－ 2009年9月16日記－

読書により思慮深さを身に付けよう

一本をどンドン読もうー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：なぜ読書は大切なのですか。本を読むとどのような力が身に付くのですか。

A：(林明夫：以下省略)学校の先生や家の人から「本を読んだほうがいいよ」とか「本を読みなさい」とあまりにも多く言われるために、逆に反抗心が生まれて「本など絶対に読まない」と思ってしまう方も多いのではないかと思います。ただ、それでは、あまりにももったいないと思います。



では、なぜ学校の先生や家の方は、皆様に本を読むように言うのでしょうか。少し冷静になって考えてみましょう。

私は、読書は何のためになる、もっと言えば、読書によって何が身に付くのかと問われれば、「思慮深さが身に付く」と答えます。

Q：「思慮深さ」とは何ですか。

A：「思慮深さ」とは「ものごとを自分の力で深く考える力」、「自分自身を省(かえり)みる、振り返る力」であると、私は考えます。

本を読むことは作者・筆者との対話であると、私は考えます。一つ一つの文章は、作者・筆者の人格のほとぼしり・表れであり、読者であるあなたに伝えたい・語りかけたいことの固(かた)まりとも言えます。

作者・筆者が読者であるあなたに訴えかける一つ一つの文章は一体どのような意味なのかを、「ああ、これはこのようなことなのか」と「納得」つまり「理解」しながら、自分のペースで少しずつ本を読み進めましょう。すると、読者であるあなたの心に触れる文章や、こんな考えもあるのかという文章に出会うことも多いと思います。

そのようなときは読むスピードを少し落として、これは一体どのようなことなのだろうか、作者・筆者は読者に何を伝えようとしているのだろうかとじっくり考えることをお勧めします。

できれば、自分自身はこれからどうすればよいのだろうか、自分のこととしてじっくり考えることをお勧めします。



本を読んで本当に気に入った文章に出会ったら、「書き抜き読書ノート」を作り、たとえ一行、一文字でもよいから書き抜いておく。この本当に気に入った文章や語句を書き抜いた「書き抜き読書ノート」を「一生の宝物」として大切にし、生涯にわたって、つまり、死ぬまで折に触れて読み返すことを私はお勧めします。

自分のお気に入りの文章・自分のこととしてじっくり考えたことのある文章の「かたまり」である「書き抜き読書ノート」を、生涯にわたって繰り返し、繰り返し読み返すことは、その度ごとに深く、深く自分の力でものごとを考え、自分自身を振り返るきっかけになります。

その成果が少しずつ自分自身のものになって身に付き、人生において困難なことに出会い、それを乗り越える支えになったときには、皆様の「人格の基礎」が築かれるかもしれません。

Q：では、どのような本を読むと、「人格の基礎」が築かれるような「思慮深さが身に付く読書」ができるのでしょうか。

A：読みやすいと言われる村上春樹さんや中島らもさん、吉本ばななさんの本は、よく読むと内容が深く、読者である我々に訴えかけてくるものもたくさんあります。

98歳で詩人としてデビューを果たした柴田トヨさんの詩集「くじけないで」も素晴らしいものです。

このような現代作家の本もとてもよいのですが、激動の時代に生きた方の自伝もじっくり時間をかけて何回も読むと、時間の経つのがわからなくなるものが多いです。

例えば、ガンジーの自伝などは是非一度はお読みになっていただきたいと思います。

ガンジーの慰霊碑には、「7つの社会的大罪」として次のような言葉が刻んであるそうです。

原則なき政治 Politics Without Principles

道徳なき商業 Commerce Without Morality

労働なき富 Wealth Without Work

人格なき学識(教育) Knowledge Without Character

人間性なき科学 Science Without Humanity

良心なき快楽 Pleasure Without Conscience

献身なき信仰 Worship Without Sacrifice



福沢諭吉先生の自叙伝である「福翁自伝」も超お勧めです。「自分の未来は自分で切り開く」、「自己責任」、「自助努力」、「自尊心」とは何かの本当の意味がよくわかります。

Q：塾長は、最近どんな本を読んでいますか。

A：私は、古典の勉強が足りないので、最近、孔子の教えをまとめた「論語」と、中国の唐の時代の繁栄を築いたと言われる太宗の教えをまとめた「貞観政要(じょうがんせいよう)」、それからソクラテスの弟子でアリストテレスの師であったプラトンの本を読んでいます。日本の世阿弥(ぜあみ)や、宮本武蔵の「五輪書」、正岡子規の一連の著作も子規の同級生の夏目漱石や南方熊楠(みななかたくまぐす)の本といっしょによく読んでいます。

Q：一番のお勧めの本は何ですか。

A：何回も紹介させていただいて恐縮ですが、内村鑑三(うちむらかんぞう)先生の次の三部作です。「後世への最大遺物・デンマルク国の話」と「代表的日本人」、「余は如何(いか)にして基督信徒(キリストしんと)となりし乎(か)」(すべて岩波文庫に入っています)の三冊が一番のお勧めです。



一冊目は、いかによく生きべきかの総論と外国での代表事例。二冊目は、日本の代表的事例。三冊目は、では自分はどのように自分の人生に立ち向かいよく生きようとしたのかという御自分の事例と、私は三冊の本を関連づけています。

是非ご一読を。一回ではわかりにくければ、一生かけて何度でもお読み下さいね。

— 2011年9月21日記一

2つの読書を

—精読と多読—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：読書によって身に付くことは何だとお考えですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)私は、読書によって身に付くのは「思慮深さ」だと考えます。世の中のことやいろいろなものの見方を読書を通して学ぶことができ、自分自身を振り返りながら深く考える力、つまり思慮深さを身に付けることができると私は考えます。



(2)このような読書に加えて、新聞を毎日のように丹念(たんねん)に読む力が身に付けば、批判的思考能力が身に付くと私は考えます。

(3)つまり、読書と新聞によって自分で考える力が身に付くと私は信じて疑いません。

Q：読書にはどのような方法があるとお考えですか。

A：(1)ことばの意味を一語一語確かめながら一冊の本をじっくりと読む「精読」と、数多くの本を読む「多読」の2つの方法があると考えます。

(2)「精読」とは、学校の教科書を学ぶように、一語一語の意味を確かめながら正確に、精密に一冊の本を読み進める読み方だと私は考えます。

(3)一語一語、一文一文、一章一章を「ああ、これはこのような意味・内容なのか」とよく納得しながら一冊の本を読み終える。意味のよくわからない語句に出会ったら、おっくうがらないで辞書を用いて調べること、精読には欠かせません。

(4)一冊の本をじっくりと時間をかけ、また、ノートを取りながら読む。一回読んで著者が何を言いたいのかがよくわからなかったら、時間をおいて2回、3回と繰り返し読むことも、精読には欠かせません。

(5)このように、学校の教科書を用いて1つの科目を学ぶのと同じように、正確に、また、精密に本やテキストを読むのが精読です。

像教行子孔師先



Q：塾長はどんな本を精読しましたか。

A：大学生のときは法律の勉強をしていたので、法律の条文や教科書、参考書、判例集、論文集などはかなり精読しました。夏目漱石や内村鑑三の講演集、福沢諭吉の自伝なども興味があったのでかなり詳しく読みました。今は、中国の古典である「論語」、日本や世界の古典、日本や世界の歴史

の本を、少しずつですが毎日一章一章かなりていねいに読んでいます。

Q：精読によって得られるものは何ですか。

A：(1)一つ一つのことばを、時には辞書で意味を確かめながらていねいに読み進めますので、著者つまり書き手が用いることばを「理解」できるようになります。その結果、「ことばの数」、「語彙(ごい)の数」、英語でいう「ボキャブラリーの数」が少しずつ増えるのが精読の効果の一つです。



本をじっくりとよく読む人は、読まない人に比べて知っていることばの数が多いために、学校の教科書を読むときも、先生から授業を聞くときも、すべての科目のテストの本文や設問に接するときもよく「理解」でき、その結果、学力が高いように私には思われます。

(2)本を詳しくていねいに精読することにより著者の考えが深くわかり、「ああ、これはこう考えればよいのか」と様々な考えに接し、それを「理解」できるようになります。それによって、自分を振り返ることや自分の未来を見つめ直すこともできます。

Q：多読とは何ですか。

A：(1)いろいろな分野の本を数多く読むことだと私は考えます。

(2)1人の人が著した一冊の本を精読したあとに、その人の書いた本を次から次に読むのも多読です。私は、夏目漱石や漱石の友人であった正岡子規の本を読むのが好きです。漱石や子規の何冊かの本をていねいに精読したあとは、2人が書いたものを数多く読むようにしています。何冊かていねいに精読したあとに同じ著者の本を多読するのは、著者の考えに親しんでいるので楽しいものです。皆様もぜひ試して下さいね。



(3)1つの分野の本をどんどん読むのも多読です。例えば、同じ歴史の本でも、日本史もあれば世界史もあります。世界史の中には、東洋史もあれば、西欧史、アメリカ史、ラテンアメリカ史、アフリカ史もあります。東洋史の中には、中国史、ベトナム史、フィリピン史など国別の歴史があります。日本史や世界史、国別の歴史にはそれぞれ古代史、中世史、近代史、現代史があり、それらはさらに政治史や産業史、文化史などといくつにも分かれます。



(4)自分の興味や関心に合わせて、様々な分野、英語でいう「ジャンル」の本をどんどん読む。これが多読だと私は考えます。

Q：多読は何に役立ちますか。

A：(1)世界が一気に広がるのが多読です。私はスペインの現代文学が好きで、スペイン在住の木村宏美さんという翻訳家の先生が1～2年かけてじっくりと翻訳したものをよく読んでいます。それらを読むと、バルセロナの中世から現代の歴史や様子がよくわかります。文章と文章をつなぎ合わせると、絵や映像を見ているようになります。

- (2)樋口一葉の小説を読んでいると、明治時代の東京の下町の様子が目に浮かびます。
- (3)時代や土地などの制約を一気に取り払い、世界を見る目を一気に広げてくれるのが多読です。
- (4)ただし、何回も申し上げて恐縮ですが、多読をしてこのような状態になるのは、何冊かの基本的な本を精読してからだと思われま



Q : 最後一言どうぞ。

- A : (1)精読や多読をして自分の心に触れる語句や文章に出会ったら、それらを「書き抜き読書ノート」に書名、著者名とともに書き抜いておくことをお勧めします。
- (2)書き抜いたお気に入りの語句や文章を年に何回か読み直すと、その本を読んだときのことが思い出されます。
- (3)自分のお気に入りの語句や文章は、何回も読み直すうちに、自分のものの考え方に影響を与えることがあります。人生の応援団になってくれることもあります。また、日本語と同じように自由に読むことのできる外国語を1つでも身に付けると、日本語とは全く違った別の世界が広がりますよ。
- (4)精読と多読を併用した読書は、何歳になってもできます。皆様の人生の宝物となるような本に少しでも多く出会えますようにお祈りします。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

— 2012年9月20日記 —

小学生、中学生、高校生は古典に親しもう

—古典は人生の宝物、人類の宝物—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：古典とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)昔、書かれた書物。昔、書かれ、今も読み継がれる書物。
- (2)転じて、いつの世にも読まれるべき、価値・評価の高い書物。
- (3)古代ギリシア・ローマの代表的著述。

*以上が、国語辞典として評価の高い「広辞苑」(岩波書店)による「古典」の説明です。

Q：例えば、「論語」は古典ですか。

A：「論語」は、「東北アジアにおける最高の古典である」といわれています。古典は、人々に智慧(ちえ)を与え、生きる力の源(みなもと)になっています。古典にはいつの時代にも、また、だれにとっても共通のことばが豊富に残されています。すなわち、「古典」は常に現代と交響しているのです。「論語」はその代表的な作品、「古典」の中の「古典」と私は考えます。



Q：「論語」とはどんな本ですか。

A：今から 2564 年前の紀元前 552 年に中国の魯(ろ)国の昌平郷に生まれ、紀元前 479 年に 74 歳で没したといわれる「孔子」の教えを、孔子の没後に弟子たちがまとめた 499 章の書物です。中国だけでなく世界中で読み継がれています。

日本にも早くから伝えられ、聖徳太子をはじめ多くのリーダーが読みすすめました。特に、徳川家康は国をまとめるにはリーダーの人格を磨くことが大切であるとの考えのもとに、「論語」の学習を奨励。江戸時代は、武士だけでなく庶民も「論語」に親しみました。

幕末の武士の学校である「藩校」、庶民が学んだ「寺子屋」でも「論語」はさかんに学ばれ、日本人の誠実さ、勤勉さの基礎を築いたと考えられます。

北関東でも大活躍をした二宮尊徳先生や、埼玉県の大谷で育ち、明治時代に多くの産業を興した渋沢栄一先生も「論語」に親しみ、リーダーとしての基本を身に付けました。



Q：「論語」には、どのようなことが書いてあるのですか。

A : (1)孔子は 52 歳のときに中国の魯という国の中都の司法長官となり、さらに 55 歳で魯国の公安・警察担当の長官となり、魯国の君主であった定公の右腕になりました。しかし、職を失い、69 歳までの 15 年間近くは自分の能力を評価して役割を与えてくれる君主を求めて諸国を放浪、苦難の旅を続けました。69 歳で生地である魯に帰国し、弟子の学問・教育に専念。74 歳で他界なさいました。

(2)警察長官という要職を務めるほどの才能がありながら、このような苦難の人生を多くの弟子たちとともに過ごして感じたこと・考えたことを弟子たちに伝え、それを弟子たちが文章にまとめて竹の管に書き記し、後世に遺したものが「論語」です。



(3)このような背景を踏まえて「論語」を読むと、とてもわかりやすく、身に染みてきます。

Q : 例えば、どのような文章ですか。

A : 「論語」の第 1 章を御紹介します。

像教行子孔師先



(1)子曰わく、^しい^まな^とき^こなら^まよろこ^こぶ^こと^を習^ふう、亦た説^ばし^から^ずや。

(訳)老先生は、晩年に心境をこう表された。

(たとい不遇なときであっても)学ぶことを続け、(いつでもそれが活用できるように)常に復習する。そのようにして自分の身につけているのは、なんと愉快でないか。

(2)朋^とも^あえん^ぼう^きた^またの^たの^こと^を習^ふう、亦た楽^しか^らず^や。

(訳)突然、友人が遠いところから(私を忘れないで)訪ねてきてくれる。懐^なつ^かしくて心が温かくなるではないか。

(3)人^ひと^し知ら^ずして^いき^どお^らず、亦た君子^まくん^しならずや。

(訳)世間に私の能力を見る目がないとしても、耐えて怒らない。それが教養人というものだ。

* どうです。身に染みるでしょう。「論語」には、このような「教え」が 499 章にわたって書き記されています。「論語」の中心は「仁(じん)」、人間愛という考えです。「仁」つまり人間愛を深めて「君子」、つまり教養ある立派な人になるにはどうしたらよいかを自分の経験を通して弟子たちに語り、それを弟子たちがまとめたのが「論語」です。

Q : 小学生、中学生、高校生がそのような文章を読んでわかりますか。

A : (1)江戸時代の藩校や寺子屋では、「素読」といって、意味がわかってもわからなくてもひたすら声を出して読み続ける学習の仕方、意味は何十回、何百回、何千回も素読しているうちに自ずとわかるという学習の仕方が一般的でした。

(2)現代は、わかりやすい「論語」のテキストが何十種類も出版されていますので、自分に合ったテキストを 1 冊身近に置いて、自分の「実力」に応じた読み方をすればよいと私は考えます。



(3)例えば、漢字だけの文章を「白文(はくぶん)」といいます。が、「論語」を「白文」で読む能力のある方は、江戸時代のように「白文」をゆっくりと「素

読」するとよいと思います。

(4)「返り点」などがある「論語」を読む能力のある方は、「返り点」付きの「論語」の「素読」をするとよいと思います。

(5)「書き下し文」を読む能力のある方は、「書き下し文」で「論語」の素読をしましょう。このように、自分の能力に応じた「素読」をお勧めします。

(6)いずれの場合も、「論語」の各章の「現代語訳」や「語句」の説明、テキストの編集者の「解説」もどンドン読む。はじめのうちは、「現代語訳」や「語句」の説明、その章の「解説」を何回か読んでから「論語」の本文の「素読」をすることをお勧めします。

(7)とにかく、第1章から第499章までを1～2か月間かけて読み切ることです。

(8)1～2回読んでこれは面白いと思ったら、気に入った章だけでも読み返すとますます面白くなるのが「論語」です。

(9)小学生は小学生なりに、中学生は中学生なりに、高校生は高校生なりに「論語」に親しみ、それから高校を卒業し、大学に進学し、社会人となることをお勧めします。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)「論語」が本当によく「理解」できるのは、また、役に立つのは70歳を過ぎてからではないかと私は確信します。孔子は55歳から69歳までの約15年間本当に苦勞し、そこで感じたこと・思ったこと、人間としてあるべき姿を語ったのが「論語」の内容だからです。70歳になってから「論語」を読むよりは、小学生、中学生、高校生のうちから少しでも「論語」に親しんで、70歳以降の人生に備えるというのも超高齢化社会の生き方かもしれませんね。

(2)今回は「論語」を例にとり、「古典」の学び方を考えました。日本国内にも、また、中国だけでなく世界各地にも「古典」は存在します。図書館や書店に行くと、様々な古典に出会うことができます。学校の各科の教科書に紹介されている「古典」を中心に、まずは1～2冊をじっくりと読んでみて下さい。

お気に入りの「古典」が何冊かあるだけで、皆様の人生が豊かになります。古典は人生の宝物、人類の宝物だと私は考えます。そのきっかけを小学生、中学生、高校生のうちにつかんで下さいね。

*本文中の「孔子」や「論語」の説明、その現代語訳については加地伸行・全訳注「論語」増補版、講談社学術文庫、講談社2011年3月8日発行を参考にさせていただきました。

— 2012年11月11日記 —



「読書の絶対量」を増やし、「読解力」を身に着けよう

— 「読書の絶対量」の増加は「学力向上」の第一条件—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：「読書の絶対量」を増やすとは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 読書とは、本や新聞、雑誌など、文字、特に活字を読むことです。
- (2) 「読書の絶対量」を増やすとは、本や新聞、雑誌などに載っている文字・活字を読む絶対量を確実に増やすことです。
- (3) 例えば、本を読むなら、1年に1冊よりは2冊、1か月に1冊よりは2冊、1週間に1冊よりは2冊と、冊数を増やせば増やすほど「読解力」が身に着きます。
- (4) 新聞を読むなら、1週間に1回読むよりは、毎日読むほうが「読解力」が身に着きます。新聞のTV欄だけよりは、一面からなめるように読むほうが「読解力」が身に着きます。
- (5) 雑誌も月に1冊よりは2冊、週に1冊よりは2冊読むほうが「読解力」が身に着きます。1つの記事を読むよりは、全ページを通して読むほうが「読解力」が身に着きます。



Q：「読解力」とは何ですか。

A：「読解力」とは、本や新聞、雑誌などに書かれている文字・活字がどのような内容かを「読み解く力」です。書いてある内容が、ああこれはこのようなことかとよくわかる、よく「理解」できる力といえます。

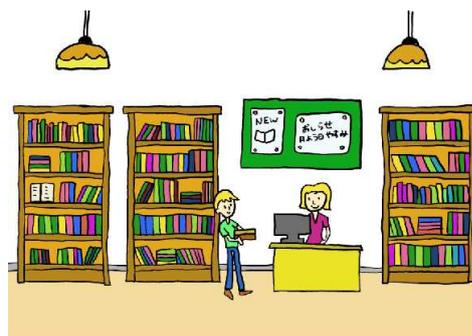


Q：「読書の絶対量」を増やせば増やすほど、「読解力」は身に着くのですか。

A：(1) その通りです。

(2) ただし、条件が2つあります。

(3) 1つ目の条件は、「質のよい本や新聞、雑誌を読むこと」です。世の中には質のよい本や新聞、雑誌もあれば、必ずしもそうではないものもあります。せっかく自分の人生の大切な時間を用いて読むのなら、質の高い本や新聞、雑誌を自分の力で選んで読むことをお勧めします。



(4)一番のお勧めは、学校の教科書で紹介されている本や、図書館の本を読むことです。新聞や雑誌も、家庭で購読しているものや、図書館のものを読むことです。

(5)家に置いてある本、学校や開倫塾の先生方が勧めてくれる本も読むに値すると思います。

(6)もう 1 つの条件は、「本や新聞、雑誌は腰を落ち着けてゆっくと読むこと」です。

(7)1 つ 1 つの文字・活字をていねいに、ていねいにじっくりと読み込めば読み込むほど、そこに何が書いてあるかがよくわかります。よく「理解」できます。「読解力」も身に着きます。

(8)このように質の高い本や新聞、雑誌を大量に時間をかけてじっくりと読むと、「読解力」が身に着きます。

*保護者の皆様をお願いします。お子様が手に取れるところに質の高い本や雑誌をたくさん置いてあげてください。辞書や百科事典、年表や地図帳も置いてあげてください。情報の宝庫である新聞も御家庭で是非、御購読し、お子様にも毎日読ませてあげてください。



Q：本や新聞、雑誌を読むときにしたほうがよいことはありますか。

A：(1)あります。たくさんあります。

(2)読んでいて「わからない語句」があったら、「気持ちが悪い」と思い、躊躇(ちゅうちょ)しないで、つまり、ためらうことなく、辞書や用語集、百科事典などで調べることです。「わからない語句」をそのままにして次の文章に進まないことです。このことを自分自身の大切な「習慣」にしましょう。

(3)調べたことは、「意味調べノート」に書き写すこと。書き写した内容はその場で覚えてしまうことも、自分自身の大切な「習慣」にしましょう。

(4)「ことばは力」です。「ことばの数は力」です。自分がその意味を知り、身に着けていることばは力になります。身に着けていることばの数が多ければ多いほど、「読解力」が増します。

(5)英語でも同じです。意味をよく知っていて、その用い方を身に着けている英単語や熟語の数が多ければ多いほど、文章を読んでも何が書いてあるかよくわかります。読んでわかることは聞いてもわかるのが普通ですので、ことばの多さはリスニングにも役に立ちます。ことばの数が多ければ、伝えるべきことを書くき、話すこともできます。

(6)継続は力です。1日に10のことばを辞書で調べ、その意味をノートに書き写して確実に覚えると、1年間で3650語、3年間で1万語を身に着けることができます。

(7)どうしたら辞書などで調べたことばのすべてを忘れることなく身に着けることができるか。一番確実な方法は、「意味調べノート」をいつも1ページ目から声を出して読む、つまり「音読」することです。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)「書き抜き読書ノート」を作ることをお勧めします。「書き抜き読書ノート」とは、本を読んでいて気に入った文章があったら、筆署名や作品名、出版社名やページ、日付とともに書き写しておくためのノートです。

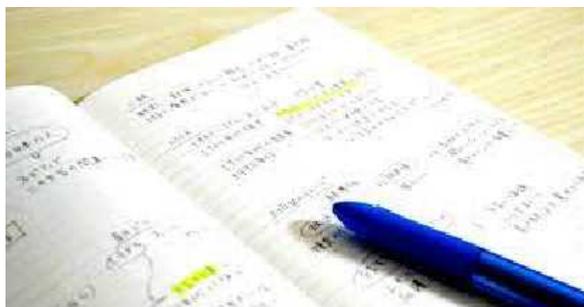
(2)「スクラップブック」を作ることもお勧めです。「スクラップブック」とは、気に入った新聞記事をハサミやカッターで切り抜き、のりやテープで貼り付けておくノートです。新聞名や日付はもちろん、その記事を読んで考えたことなどを自由に書き込んでおきましょう。

(3)家庭の新聞を切り抜くときには、必ず保護者の許可を得ること。また、図書館の新聞は学校や公共のもので、絶対に切り抜いてはいけません。どうしてもその記事を手にしたければ、コピーの申請をし、料金を支払ってコピーして頂いてください。

(4)自分で作った「書き抜き読書ノート」と「スクラップブック」は1ページ目から何回も何回も読み返しましょう。必ず皆様の心の奥に大切なものとして残り、生きる上での心の支えになります。皆様の「人格の基礎」の一部にもなります。

(5)このような形で「読書の絶対量」が増えれば増えるほど、「読解力」が確実に身に着きます。「読解力」が身に着けば、学校の教科書・教材・問題集・プリント、定期試験、検定試験、模擬試験、入学試験などの試験の問題の内容がよく「理解」でき、速いスピードで読めますので、学校でよい成績を取ることができます。3大検定にも合格します。模擬試験や入学試験でもよい点数が取れて希望校合格を果たすことができます。

(6)私が強く言いたいのは、来年1月以降に受験を控えた受験生ほど、本や新聞、雑誌を毎日一定時間以上、最低でも1時間はじっくりと読み込み、「読書の絶対量」を増やす取り組みをして頂きたいということです。これが不足しているといくら教科の学習をしても成績はある一定のところまでしか伸びない、最後の急激な伸びを決めるのは「読書の絶対量」ということを肝に銘じて、この夏を過ごしてください。



(7)私は、慶應義塾大学法学部法律学科の入学試験当日の朝まで、受験勉強と同じ時間だけ岩波文庫や岩波新書、朝日新聞、雑誌「世界」を読み続けていました。おかげで入学試験の問題はすべてよく「理解」できたためか、間違った解答をあまり書くことなく、合格を確信して入学試験を終えることができました。御参考までに。

(8)夏休みから、秋・冬は「読書の絶対量」を増やす絶好の時期です。学校の教科書に出ている文章で、皆様の心に響くものがあったらその作品の全分やその作者の他の作品を図書館で探してどんどん読んでください。時間をつくってその作家の文学館やゆかりの地を訪問してみましよう。

— 2015年6月24日記 —

(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

(作新学院大学 客員教授)

読書と新聞で「読解力」を身に着けよう

一塾生全員が「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」に参加しようー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：「読解力」とは何ですか。

A：(林明夫。以下省略)

- (1)「読解力」とは、文章を「読」んで、その意味を「理解」し、「解釈」する「力」のことです。
- (2)例えば、学校の教科書の文章を読んで、そこに書いてある内容がどのような意味かがよくわかることが「読解力」です。
- (3)文章を読んでその意味を「理解」したり、そこに書いてあるのはどのようなことなのかがよくわかったりしたほうがよいのは、学校の教科書だけではありません。
- (4)教材や参考書、問題集も、そこに書いてある文章がどのような意味なのかをよく「理解」することが求められます。また、学校の先生が授業中に黒板に書く内容や授業のプリントもどのような意味なのかを「理解」することが大切です。
- (5)一方で、「定期試験」や「実力試験」、「模擬試験」、「入学試験」では、そこに書いてある文章の意味がよくわからなければ正しい答えを出すことができず、よい点数を取ることもできません。
- (6)受験生の皆様は、自分が受験する私立中学校や中高一貫校の入試、高校入試、大学入試などの問題を見たことがあると思います。各教科の入試問題は皆、おしなべて長い長い文章で構成されています。問題の本文はもちろん、設問や選択肢も結構長い文章になっています。英語の問題の本文も、何ページもある長い長い文章になっています。
- (7)このような5ページから10ページぐらいの長い長い文章を、例えば50分間の試験時間内にすべて読み、問題の本文や設問、選択肢の内容を「読解」した上で、つまり、よく読んで意味を「理解」した上で正しい答えを自分の力で考えなければ点数にならないのが入試です。
- (8)入試問題の中には易しい基本的な問題もありますが、時間をかけてじっくりと考えなければ解けない難しい問題もあります。易しい問題は読んだ瞬間にそこに何が書いてあるかを「読み解き」、短い時間でパッパッパッと正解を出す必要があります。そうしないと、難しい問題をじっくりと解く時間を生み出すことができないからです。



Q : 「読解力」を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 「本を毎日 30 分以上読むこと」つまり「読書」と、「新聞を毎日 30 分以上読むこと」が一番効果的です。

(2) そこで、開倫塾は今年の 7 月 25 日から 10 月 24 日まで「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」の 2 つのコンテストを実施し、「読解力アップ」に努めてきました。

(3) 読書をしていて気に入った語句(ことば)や文章があったら、一文字、一語、一文でもよいので「書き抜き読書ノート」に書き写しておきましょう。

(4) 新聞を読んでいて気になった記事があったら、ハサミで切り抜いて「スクラップブック」にのりで貼り付けておきましょう。



Q : 本や新聞を毎日読むことで得られるものは、「読解力」のほかにもありますか。

A : (1) 読書によって得られることはたくさんあります。作者の経験や考えを知ることができます。また、作者との時空(時や場所)を超えた対話をすることもできます。これにより、思慮深さ(しりよぶかさ)を身に着けることができます。

(2) 新聞を読むことで、「自分で考える力」と、これはおかしいのではないかと考える力、つまり「批判的思考能力」を身に着けることができます。



Q : 最後に一言どうぞ。

A : 偏差値アップ、希望校合格には、教科の学習が大切なのはもちろんですが、本と新聞を毎日 30 分以上ずつ読むことで「読解力アップ」を図ることも欠かせません。「書き抜き読書ノートコンテスト」と「スクラップブックコンテスト」を活用して、「読解力アップ」に励んでくださいね。

— 2015 年 9 月 14 日記 —

(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

7月25日から10月24日までの3か月間、「長時間自己学習」として「読解力アップ」「語彙力アップ」「定着力アップ」を行い、偏差値10～15以上アップを目指そう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：開倫塾では、7月25日から10月24日まで「長時間自己学習」として「読解力アップ」「語彙(ごい)力アップ」「定着力アップ」を行い、偏差値10～15以上アップを果たすように指導しているそうですね。なぜですか。

A：(林明夫。以下省略)

- (1)開倫塾の使命は、塾生の皆様の学校成績向上と自分の行きたい学校、つまり、希望校への合格を果たすことです。
- (2)現在の偏差値と希望校に確実に合格できる偏差値との差が5以上ある受験生はたくさんいます。そこで、希望校合格を果たすためには、11月に入るまでに希望校に合格できるだけの偏差値を確保しておかなければならないからです。



Q：どのようにすれば、今から11月に入るまでの間に偏差値を10～15以上アップさせることができますか。

A：(1)「読解力」と「語彙力」、「定着力」を身に着けることが一番大切です。

- (2)全教科とも模擬試験や入学試験の問題文・設問・選択肢などは分量がとても多く、また、難解な語句がたくさん使われていますので、「読解力」と「語彙力」が絶対に必要だからです。また、あやふやな知識では正解を出すことができませんので、「定着力」も欠かせないからです。

Q：「読解力」とは何ですか。「読解力」を身に着けるにはどうしたらよいですか。

A：(1)「読解力」とは、試験問題に書かれている内容を試験時間内に正確に「理解」する力のことです。時間内に問題のすべてを読み切る力とも言えます。

- (2)「読解力」を身に着けるには、本をじっくりと読むこと、つまり、「読書」が一番です。今からでも毎日30分以上本を読むと、「読解力」が身に着きます。
- (3)本を読んでいて気に入った語句や文章に出会ったら、そのまま「書き抜き読書ノート」に書き写しましょう。開倫塾では、7月25日から10月24日まで「書き抜き読書ノートコンテスト」を実施していますので、このコンテストを活用して「読解力アップ」を図ってくださいね。
- (4)「読解力」は、新聞を毎日30分以上腰を落ち着けてじっくりと読むことでも身に着きます。開倫塾では、7月25日から10月24日まで「スクラップブックコンテスト」を実施していますので、このコンテストを活用して「読解力アップ」を図ってください。



Q : 「語彙力」とは何ですか。「語彙力」を身につけるにはどうしたらよいですか。

A : (1) 「語彙力」とは、身につけていることば、よく知っていることばのことです。

(2) 身につけていることばの数のことを「語彙数」と言います。語彙数が多ければ多いほど、試験問題の内容がよくわかります。よく知っていることばの数が少ないと、何が書いてあるのかがよくわかりませんから、難解なことばが使われている試験でよい点数を取ることは難しいと言えます。

(3) 語彙数を増やすには、わからないことばがあったら「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「各教科の用語集」、「各教科の学年別参考書」を用いて調べることが大事です。辞書を手に馴染ませてポロポロになるまで使いこなせば、成績は必ず急上昇します。

(4) 調べたことは、「意味調べノート」に書き写すこと、書き写した内容はその場で覚えてしまうことも習慣にしましょう。

Q : 「定着力」とは何ですか。「定着力」を身につけるにはどうしたらよいですか。

A : (1) 「定着力」とは、各教科の教科書や教材の内容がスミからスミまで正確に身につけていることです。

(2) うろ覚えだと、模試や入試でよい点数を取るのは極めて難しいと言えます。

(3) では、教科書や教材の内容をスミからスミまで正確に身につけるにはどうしたらよいか、よく考えてみてください。

(4) テストの問題をいくら解いても、知識がスミからスミまで身につくことはありません。身につけるには、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」が有効です。

(5) 「音読練習」とは、スラスラとよく読めるようになるまで少し大きな声を出して読むことです。

(6) 「書き取り練習」とは、教科書の書体である楷書で正確に書けるようになるまで書く練習をすることです。

(7) 「計算・問題練習」とは、一度解いた計算や問題は見た瞬間にパッ、パッ、パッと正解が出るようになるまで何回もやり直すことです。

(8) 開倫塾では、これら3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。「定着力」を身につけるには、この「3大練習」を繰り返すことが最も有効です。



Q : これらはいつやればよいのですか。

A : (1) 授業中にすべてを終わらせることはできませんので、「長時間自己学習」の時間に自分から進んでやる以外にありません。

(2) 「学力」とは、「自分から進んで学ぶ力、主体的に学ぶ力」のことです。

(3) 今から 11 月に入るまでの間に「主体的に学ぶ力」を身につけ、自分の力で偏差値を 10 ~ 15 以上アップさせましょう。



— 2015 年 7 月 29 日記 —

(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

(作新学院大学 客員教授)

この冬、古典を一冊読み切ろう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：古典とは何ですか。

A：日本や世界の人々が、長い年月をかけて読み継いできた作品・著作です。

例えば、日本でしたら、紫式部の「源氏物語」は古典です。中国でしたら、孔子の教えを弟子たちがまとめたといわれる「論語」は古典です。

源氏物語や論語は、日本や中国の人々だけではなく、世界の人々によっても読み継がれていますので、「世界の古典」でもあります。

Q：どのようにして古典を読み切ったらよいのですか。論語を例に、お話しください。

A：わかりました。

(1) 各々の古典には、多くの種類の本が出ています。そこで、まず大切なのは、基本となるテキスト、つまり、その古典を何で読むのかを決めることです。

(2) 例えば、この冬に論語を読み切るのでしたら、宮崎市定著「現代語訳 論語」岩波現代文庫、岩波書店 2000年5月16日刊をテキストにするとよいと思います。



Q：テキストを決めたらどうするのですか。

A：(1) 論語は漢文で書かれていますので、漢文がスラスラ読める人はそのまま一気に読む。論語は、孔子の教えを弟子たちが499章にまとめたものです。章といっても、一つ一つの章はほとんどが短い文章ですので、漢文が読める人ならすぐに読み切ることができます。

(2) 漢文をそのまま読んだのでは、よくわからない場合は、各々の章ごとに「現代語訳」を、まず読む。

(3) 「子曰く」のあとの、孔子の教えの内容の部分に鉛筆でカギ・カッコをつける。カギ・カッコの中で、大切と思われる語句や教えに、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(4) 次に、「書き下し文」の該当する語句や教えに、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(5) 最後に、「漢文」の該当する語句や内容に、鉛筆で横線を引く、丸や四角で囲む。

(6) 更には、その章の「現代語訳」、「書き下し文」、「漢文」の順序で、鉛筆で印をつけたところを中心にもう一度読んでみる。できれば、「音読」、声を出して読んでみる。

(7) このように、1章ずつコツコツと読めば、1～2か月で論語を読み切ることができます。



Q：紫式部の「源氏物語」は、どのように読み切ったらよいのですか。

A：(1)「現代語訳」のみの源氏物語がたくさん出ています。現代語だけで読み通したい場合には、図書館や書店でどの源氏物語がよいか読み比べてください。自分で購入した本の場合は、気に入ったところにカギ・カッコや横線などで印をつけ、行きつ戻りつしながら読み進めることをおすすめします。

(2)「古文」の好きな方は、柳井滋他校注「源氏物語(1)桐壺一末摘花」岩波文庫、岩波書店2017年7月14日刊をテキストにして、次のようにお読みになることをおすすめします。

(3)この岩波文庫版の源氏物語は、読者の役に立つことを願い、辛い所に手が届くとはこのことかと感激するほど、微に入り細にわたりよく工夫された第一級のテキストです。

(4)テキストを開くと、偶数の右ページが「原文(古文)」、奇数の左ページが「注釈」となっています。

(5)まずは、右ページの原文に当たる「古文」を、意味のまとまりごとに声を出して読む。「注釈」の番号があるところまで、ゆっくりと読み進める。

(6)次に、「注釈」をゆっくりと読む。「注釈」その内容がよく「理解」できたら、原文に当たる「古文」をもう一度音読する。さらに、「注釈」にもう一度目を通す。

(7)このように一つの段落を「原文」「注釈」、「原文」「注釈」と行きつ戻りつしながら、次の「注釈」が出てくるところまでを一つの単位にして読み進める。

(8)このようにして「1段落」を読み切ったら、その「段落」をもう一度音読する、声を出して読んでみることをおすすめします。

(9)この岩波文庫版の源氏物語ほど、「古文を愛する読者の立場」に立って作られた、読みやすい源氏物語はありません。2～3か月かけ、「注釈」を含めてじっくりとお読みください。

(10)どうしても「古文」から入るのは難しいという場合には、「注釈」をよく読んでから「古文」を読むという手もあります。ぜひ、お試しを。



Q：なるほど、「注釈を大切に」ということですね。では、近代文学の古典ともいわれる夏目漱石の作品は、どのように読んだらよいのですか。

A：(1)夏目漱石の作品も、注釈なしで原文を読み通すことは極めて困難と思われま

(2)ただし、いくら困難とはいえ、現代語訳のみで夏目漱石の作品を読むのは余りにももったいないです。ただし、1ページの中に数多くの難解な語句が頻出しますので、「注釈」のついた「全集」をテキストにすることをおすすめします。

(3)夏目漱石の作品もたくさん出版されています。図書館や書店で実際の作品を手に取り、注釈がわかりやすく一番読みやすいものをお選びになることをおすすめします。特に、図書館にあるわかりやすい「注釈」が豊富な岩波書店版の「漱石全集」がおすすめです。2016年から刊行されている岩波書店版「定本 漱石全集」は、超おすすめです。



Q : 「古典は、図書館の全集で」ですか。

A : (1) そのとおりです。

(2) 学校図書館や公立図書館には、読みやすく優れた「全集」が、文字通り山ほど所蔵されています。以前は知識欲旺盛な若者や社会人が山ほどいましたので、図書館の「全集」はいつも貸し出し中で、なかなか読むことが難しかったようです。しかし、最近は「古典離れ」が進んでいるためか、いくらでも読めるようです。



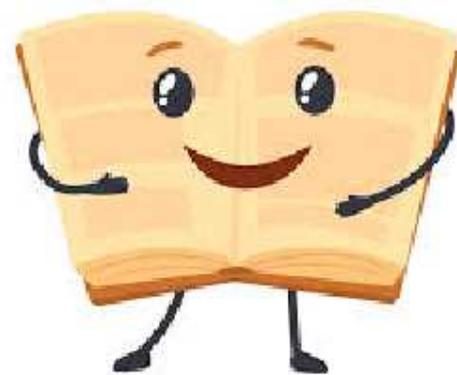
(3) 今こそチャンスですので、これぞという作家や著者がいたら、一つ一つの作品を「注釈」も含めて、「全集」で1～2か月かけてじっくりと読み切ってくださいね。

(4) 文学作品などの人文科学だけではなく、自然科学や社会科学の分野にも、日本や世界各国、人類の宝物ともいえる「古典」が綺羅星のように、数えきれないほどあります。

(5) この冬は、たくさんある中の一つの「古典」との「時と空間、時空を超えた対話」に挑戦しましょう。

2017年11月21日記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)



この夏から、「読解力」を身に着け、大幅な成績UPを目指そう

—辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けよう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：大幅な成績UPを目指すには、読解力を身に着けることが必要なのですか。

A：(1)その通りです。大幅な成績UPを果たすには、教科書や参考書、教材を正確に読み解く能力、つまり「読解力」が欠かせないからです。

(2)同時に、定期試験や模擬試験、入学試験の問題文や設問、選択肢の文章を正確に読み解いた上で、正解を導き、合格点を取るためにも「読解力」は欠かせません。

(3)各教科の内容を勉強することはもちろん大切ですが、これと同じくらいのエネルギーと時間を用いて、文章や資料などをスピーディーに、正確に読み解く力、つまり「読解力」を身に着けることが絶対に必要です。

*各教科の勉強だけして「読解力」を身に着ける努力、取り組みをしないのは、キャッチボールや素振りの練習をしないで野球をするのと同じです。蹴^け伸びの練習をしないでクロールに挑戦するのと同じです。



Q：模擬試験の偏差値を上げるためにも、読解力は必要なのですか。

A：はい、必要です。偏差値には10ごとの壁があります。偏差値40、50、60、70など各々の壁を突き破るには、教科の勉強とともに「読解力」を身に着けることが欠かせません。

Q：読解力を身に着けるには、具体的にどうしたらよいのですか。

A：簡単です。次の三つを確実に行うことです。すると、短期間に「読解力」が身に着き、成績が急上昇します。この私の文章を読んだその日から、ぜひ次の三つをスタートしてください。あっという間に、学校の成績と模擬試験の偏差値が急上昇します。

(1)第一は、「辞書」の活用です。

①意味のわからない語句があったら「気持ちが悪い」と考え、必ず「辞書」を用いて調べること。

②「辞書」で調べたことは、「意味調べノート」か「カード」に書き写すこと。

③1日1回は、「意味調べノート」や「カード」を1ページ目、1枚目から読み直し、全部身に着けること。

*1日に10回以上、「辞書」を用いて調べてください。こうすると、1日10回×1年365



日で 3650 語になります。3 年続けると、1 万の「ことば」が身に着きます。国語と同様に、英語も毎日 10 語以上「辞書」を用いて調べましょう。3 年で 1 万の「ことば」が身に着きます。「ことばは力」「語彙(ごい)は力」です。

(2)第二は、「新聞」の活用です。

- ①新聞を毎日 30 分以上、一面からなめるように読むこと。
- ②新聞を読んで気になった記事は、切り抜いて「スクラップブック」にのりで貼り付けること。
- ③「スクラップブック」の記事には、毎日 1 ページ目から目を通すこと。

* 国際連合が定めた 2030 年に向けた人類の取り組み課題である「SDGs」の 17 項目に関係した記事を、今日から 1 年かけてスクラップし続けることをお勧めします。

* 「SDGs」の 17 項目の一つ一つは大切な内容ですので、これから学校の試験はもちろん模擬試験や入学試験にもどんどん出ます。



(3)第三は、「本格的な読書」です。

- ①学校の教科書に載っている作者・著者の本を、「作者・著者と時空を超えた対話」をするようなつもりで、腰を落ち着けて、ゆっくりと時間をかけて、一語一語かみしめながら丁寧に読み込むことが、「読解力」を身に着ける上で超お勧めです。
- ②読書をしていて気に入った語句や文章に出合ったら、たとえ一語・一文でもよいので「書き抜き読書ノート」に書き抜くこと。
- ③「書き抜き読書ノート」には、毎日 1 回は目を通すこと。



* 小学生は 1 週間に 1 冊、中学生は 2 週間に 1 冊、高校生は 1 か月に 1 冊、このような「本格的な読書」をお勧めします。「作者・著者との時空を超えた対話」を目指す「本格的な読書」により身に着くのは、「思慮深さ」「省察力」です。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1)はっきり言って、意味のわからない語句があったら「辞書」を用いて調べ、「新聞」を毎日丹念に読み、学校の教科書に出ているような作者・著者の本を腰を落ち着けてじっくりと読んでいる人の大半は、学校の成績がよく、模擬試験の偏差値も 60 以上、70 以上が多いと言えます。



(2)逆に言えば、学校の成績や模擬試験の偏差値を急上昇させたければ、教科の勉強と並行して「辞書」を毎日引き、「新聞」を毎日読み、「読書」に毎日励むことです。

(3)夏休みと 2・3 学期は、この絶好の時期です。特に難関校の受験生で、合否のボーダーラインにいる人は、必ず「辞書」と「新聞」と「読書」で「読解力」を身に着けてください。ぜひ挑戦を。

コロナ禍でこそ自己学習能力(自己教育力)を身に着け、自分の未来は自分で切り開こう!!

—辞書・新聞・読書に親しみ、思考力と表現力の養成に役立つ「読解力」を身に着けよう!!—

開倫塾
塾長 林明夫

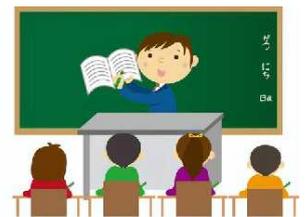
Q：コロナ禍で、学校の授業はあるものの、部活動や学校行事、教科外の教育活動はかなり少なくなっています。この状況の中で、どのように勉強したらよいですか。



- A：(1) コロナ禍で帰宅時間が早まったり、土曜・日曜日に家にいる時間が増えています。よく考えれば、昨年から今年にかけて今ほど家庭で勉強できることはありません。
- (2) 「ピンチをチャンスに」ということばがあります。コロナ禍で家庭学習の時間が増えたのなら、このピンチを最大のチャンスととらえ、家庭学習を充実させることが大事です。
- (3) 受験する学校、つまり第1志望校や、受験する試験が決まっているのなら、その準備を今日からスタートすることです。1学期の定期試験や1学期に受験する3大検定が決まっているのなら、その準備を今日から始めることです。

Q：エッ、家で全部やるのですか。できるかどうか少し心配です。

- A：(1) 家庭学習について少しでも心配なことがあったら、遠慮しないで開倫塾の先生方に相談してください。
- (2) 開倫塾では、授業のある日もない日も、先生方の勤務時間内であれば、万全の感染防止対策をして午後から夜10時30分(東京は10時)まで各校舎での自学自習をおすすめしています。
- (3) 受験学年の皆様だけでなく、開倫塾の塾生であれば誰でも、また、机と椅子が空いていれば1週間に何時間でもOKです。
- (4) 開倫塾は創業以来、すべての校舎で午後から夜10時30分(東京は10時)までの自学自習を奨励しています。毎年何千名もの塾生の皆様が、この自学自習で「学力大幅アップ」を果たしています。今年は皆様の出番です。開倫塾での自学自習を大いに活用してくださいね。



Q：最後に一言どうぞ。

- A：(1) 開倫塾では、全塾生の皆を対象に①「第1志望校調査」、②「学校成績(校内順位)調査」、③「2021年度3大検定受験予定調査」の3つを実施しています。
- (2) 保護者の皆様や開倫塾の先生方と十分に話し合って、この調査にご協力ください。そして、調査結果を自分の達成目標にし、この1年の一つ一つの勉強を充実させてください。
- (3) ただし、すべての学力の基礎基本は「読解力」です。「辞書」「新聞」「読書」に親しんで「読解力」を身に着けることが、「学力アップ」の上で不可欠です。
- * 開倫塾では、① 1日10回以上「辞書」を引く、② 1日30分以上「新聞」を読む、③ 毎日30分以上「読書」に励むことをおすすめしています。

がんばって実行に移してくださいね。



2021年4月14日(水)